令和５年度循環型社会を実現する環境教育推進事業　事業実績書

三股町立長田小学校

事業の実施時期：補助を受けた日から令和６年２月２９日

活動の概要

○　校内で取り組むリサイクル活動を通して集めた資源ゴミを、廃品回収に活かした。

○　総合的な学習の時間や生活科の学習活動の中で、環境教育の視点に立った活動を進めてきた。

○　ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の視点に立った、教科学習と環境教育の関連指導を行ってきた。

SDGs の視点：「11 住み続けられるまちづくりを」、「12 つくる責任　つかう責任」

１　学校の概要

本校は、三股町の東に位置し、令和４年度に創立１５０周年を迎えた学校である。児童数６０名の小規模校で、特認校制度を利用して、校区外から通学する児童も多く在籍している。沖水川の上流にあたり、近隣には長田峡をはじめ豊かな自然に囲まれた地域である。また、林業が盛んな地域のため、校舎から伐採作業の様子を見ることができる。

保護者の協力を得ながら、田植えや稲刈り、さつまいも栽培など体験活動も充実している。PTA 活動の１つとして、毎年１１月には廃品回収を行ったり、ＰＴＡ主催のお楽しみ会（学校キャンプ、焼き肉会、レクリエーション等）を開催したりして、児童を中心にした活動を一丸となって行っている。学校の教育活動にも理解が深い。

２　活動のねらい

（1）　環境問題に対して、自分たちができることを考え、４Ｒの実践を主体的に取り組む態度を育成する。

（2）　各教科で身に付けた力や学習の内容を環境教育と関連付け、児童の目線で実現可能な取組を探る。

（3）　地域や保護者と連携し、４Ｒに関する活動を行ったり、情報発信したりして、地域で共有しながら環境問題への関心を高める。

３　活動内容

（1）　ごみの現状を知るための活動

①　学校から出されるごみの量を調べた。ごみとして出されるものの種類（紙、プラスチックなど）や重さを調べ、現状を知ることで４Ｒの必要性についての関心を高めた。

②　残菜調査を一定期間行い、食べ残しの現状を調べた。食べ物を食べずに捨てているということへの関心を高めフードロスについて考える意識が高まった。

③　５年生の集団宿泊学習で訪れた青島青少年自然の家での野外活動（追跡ハイキング）で、砂浜に漂着したごみを採取し、ウミガメの産卵場所を守ることについて考えた。海岸で採取した漂着ごみを学校へ持ち帰り、どんなものがごみとして打ち上げられていたのかを観察し、調べた。プラスチック製品やガラス、缶、石鹸、薬品瓶のようなものなど、漂着ごみとして流れ着くものが様々あることを知る機会となった。

〔漂着ゴミの一部〕

（2）　４Ｒについての学習

５年生の家庭科では、「リユース」「リュース」「リサイクル」「リペア」「リフューズ」を学習する。学習したことをポスターにして、全校児童が見えるところに掲示した。下学年の児童にも内容が分かりやすいように、イラストと言葉でそれぞれの取組を説明することができた。

（3）　水生生物調査及び観察

地域の方の協力のもと、５年生は、しゃくなげの森でヤマメの採卵や人工授精の見学を行った。採卵場のすぐ近くには沖水川上流の河原があり、そこに生息する水生生物の観察を行い、自然環境中にある生態系や水のことなどについて話を伺った。わたしたち人間も自然の一部であるということが分かり、自然を守っていく大切さや、人間生活の影響について考える機会となった。

（4）　校内で取り組むリサイクル活動

プリントの裏紙を再利用できるように裏紙リサイクルボックスを設置した。また、工作などで使った後の画用紙など、再利用できそうな紙をストックして、児童が自由に活用できるようにかごを設置した。児童の中に、「すぐ捨てる」ではなく「まだ使える」という意識が高まった。ごみを分別し、使えるものは進んで使うようになってきた。

（5）　地域と取り組むリサイクル活動

廃品回収の前に、協力を呼び掛けるチラシを作成し地域の方への協力を呼び掛けた。廃品回収のときは、児童と保護者が地域を回り、資源ごみを回収した。回収したものは、学校運動場に集められ、種類ごとに分別され、リサイクルのため計量された。児童、保護者、学校職員、地域ぐるみで行う廃品回収で、多くの資源ごみを集める事ができた。

（6）　リユース・ブック・シェア

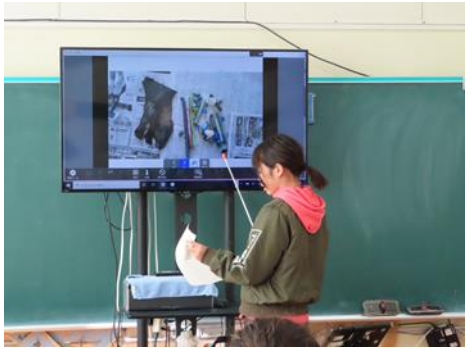
廃品回収で、たくさんの本が出されることが分かった。まだ読める絵本や小説などを寄贈していただき、誰でも借りることができる本棚作りを計画した。現在、保護者や地域の方へ寄贈していただける本の協力を呼び掛けている。リユースされた本を通して、学校と保護者、地域とが繋がる場所になることを期待している。

（7）　出前授業

宮崎県消費生活センターの堂薗先生による出前授業を行った。１～４年生と５・６年生とに分かれて実施した出前授業は、赤ちゃんから高齢者まで、全ての人が消費者であることを知り、エシカル消費について教えていただいた。エシカルな視点で商品を選ぶ消費者になることは、環境を守っていく上でも責任ある消費者として大切であると考える。子ども達にとっても身近な買い物から、環境に優しい選択をしていこうという意識を高めることができた。事後の指導では、エシカル消費に関するマークを調べ、掲示した。

（8）　教科学習との関連

教科学習の指導内容の中には、環境教育との関連が深いものが多くある。そこで、学習指導の中で発展的に取り上げたり、児童の目的意識として関連付けたりして指導を行った。例えば、５年生の「ミシンでソーイング」の学習で、ミシンの使い方を学習し、作品を作った後に、発展してアップサイクルに取り組んだ。自宅にある使わなくなった端切れや古くなったランチマットなどを利用して、ぬいぐるみ作りに取り組んだ。また、国語科の「提案します、ことばとわたしたち」の学習では、学習したことを踏まえ、環境についての提案を児童一人一人が行った。その際に、社会科で学習したフードロスのことや、森林を守ることなど、これまでに学習したことや総合的な学習でＳＤＧｓや環境について調べて分かったことなどを根拠にしたり、インターネットや本を使って説得力のある資料を見つけたりして、提案をすることができた。児童が学習したことをつなぎ、自分たちの問題（自分ごと）として考えられるようになった。２月の参観日の際に、保護者に向け発表することができた。



4　成果と課題

（1）　成果

・　身近な環境に目を向け、教科学習で学んだことと関連付けたことで、具体的な活動につなげやすくなった。
・　リサイクルボックスを設置したことで、まだ使えるものを捨てていたことに改めて気付き、４Ｒへの意識が高めることができた。
・　「エシカル消費」を知るきっかけを設けたことで、ＳＤＧｓの「１２　つくる責任、つかう責任」につながる気付きとなった。児童を通して各家庭への啓発にもなり、具体的な行動へ広がった。
・　地域との協力を通して、継続的な活動へつなげることができた。

（2）　課題

・　地域、家庭と連携した取組をする際には、事前の打ち合わせや取組を始めるまでの共通理解の時間と場の設定が必要である。コミュニティースクールの仕組みを活用して、計画的に提案し、実行へ移していきたい。
・　教科学習と環境教育の関連に目を向けていくと、ESD（持続可能な開発のための教育）カレンダーの整備をしていくとよいことが分かった。年間指導計画の見直しの際に整備していくとよい。

学校名：三股町立長田小学校
住　所：北諸県郡三股町大字長田6203番地
電話番号：0986-54-1028
E-mail：1338ea@miyazaki-c.ed.jp